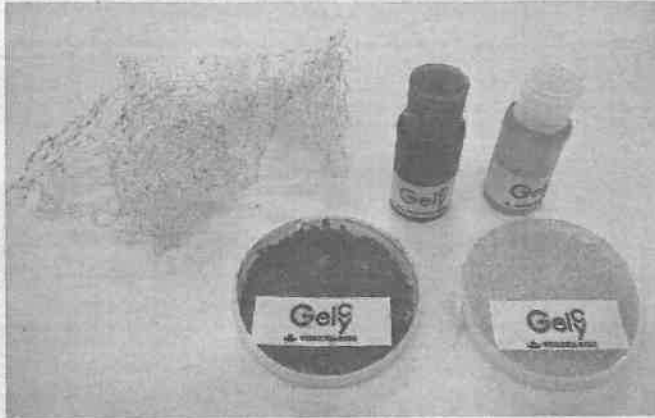
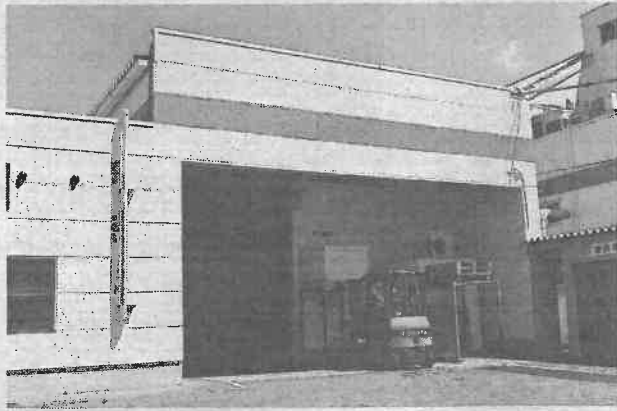


# ゼラチン残さの再利用拡大



ゼラチンネット(左上)を液体(右上)やチップ状(手前)の肥料に再利用する



専用工場に改修する倉庫

## 中日本カプセル

### 28年までに廃棄ゼロへ

同社では、このゼラチンのリサイクルを「ゼライクル」と名付け、SDGs(持続可能な開発目標)活動の一つとして取り組んでいる。

ゼラチンネットは筆素を7%以上含んでいることから、液状やチップ状に加工して肥料メーカーに納入。また住宅用建材や楽器などに使われる「にかわのり」の原料として、接着剤メーカーなどに供給している。ソフトカプセルは、ゼラチンをシート状に加工して

製品部分を型抜きする。その残りがゼラチンネットとなり、年間約300ト発生している。以前はほとんどを廃棄物として焼却処理していたが、昨年は肥料用に100ト、にかわのり用に100トを再利用した。このうち肥料用は採用するメーカーが16社に拡大し、引き合いも増えているという。ただ「社内の生産体制が追い付いていない」(須原渉開発部長)ことが

ら、既存の倉庫を専用工場に改修し、生産能力を1.5倍に高める。専用工場の広さは約140平方メートル。ゼライクルは3月に「みどりの食料システム法」に基づき基礎確立事業に認定され、6月からは農業科を待つ大垣養老高校(岐阜県養老町)と連携した稲作での実証試験も始まった。須原部長は「実証試験でゼライクルのエビデンス(科学的根拠)を得て、普及拡大につなげたい」と話している。

## 来年7月、専用工場を開設

サプリメントなどカプセルタイプの健康食品を委託生産する中日本カプセル(本社大垣市荒尾町229の2、山中利恭社長、電話0584・93・1013)は、ソフトカプセルの製造工程で発生するゼラチン残さ(ゼラチンネット)の肥料や

接着剤への再利用を拡大する。現在、発生量の約7割を再利用し、残りを産業廃棄物として処理しているが、2028年までに100%再利用し、廃棄ゼロを目指す。来年7月、本社工場内に専用工場を開設する計画だ。(西濃・春田昭継)



2023年(令和5年)

7月27日

木曜日

発行所

中部経済新聞社

〒450-8561

名古屋市中村区

名駅4-4-10

編集局 052(561)5212

販売部 052(561)5216

広告部 052(561)5213

事業部 052(561)5675

総務部 052(561)5215

東京支社 03(3572)3601

©中部経済新聞社2023

購読のお申し込み

0120-605-123